

2.10.3 食と農の安全・倫理論講座

構成員： 特定准教授 細野 ひろみ
特定助教 工藤 春代

A. 研究活動（2009.4～2010.3）

A-1. 研究概要

a) 食品由来のリスク管理システムに関する研究

今日、世界的な問題として、食品の安全問題や環境問題が発生しており、グローバル化した現代社会の構造が事故を大きくしている。このような中でリスク管理の国際的な考え方では、科学を基礎としながら、規制や政策の選択には費用と効果のバランスを考慮し、社会的・文化的要因に配慮することを求めており、そのための学問的基礎の確立と実践的な手法の開発が現在の緊要の課題となっている。そのため、リスクマネジメント指針の開発（政策の選択肢の立案・決定・評価に関して）、およびその基礎となる経済疫学研究、リスクアナリシス全体の評価手法の開発（科学的アプローチを導入するにあたっての課題の整理と考え方の提示）、その他、食品由来リスクの管理に必要な研究を行っている。

b) リスクコミュニケーション、フードコミュニケーション、サイエンスコミュニケーションの考え方と手法に関する研究

a)のような、リスク管理における科学的な考え方とは何かが広く科学者、消費者、事業者、行政などのステークホルダーに共有されるまでにはいたっていない。また、農学研究分野では先端的な科学・技術の開発が進められているが、これらの科学・技術をめぐる研究者と市民/消費者のコミュニケーションもうまく進んでいない。しかし、現代の社会問題の解決には、科学者と市民、行政などの関係者が共同して問題に取り組めるよう共通のプラットフォームの形成が不可欠であり、その基礎となる双方向のコミュニケーションが求められる。当分野ではリスクや科学、食と農をめぐるコミュニケーションのあり方や手法の開発、コミュニケーションの基礎となる人間の情報処理に関する基礎研究（リスク認知を含む）を行っている。

c) 農学倫理、農業・食品産業倫理、技術者倫理

あいつぐ食品事件のなかで食品企業倫理も問題となっている。コミュニケーションを通して食を支える農や食品の事業について市民/消費者の理解を得ながら、事業者自らの志を謳う自己規範としての倫理の探求が必要である。さらに、先端科学技術を扱う農学分野においても、物理学や工学、医学の領域で確立されてきた学の倫理の構

築が必要であり、また、食品分野の技術者の社会的な立場を支え技術者が依拠できる規範となる技術者倫理の確立と教育が必要である。そのため、農業倫理、食品産業倫理および食品技術者倫理の探求と指針のとりまとめをおこなっている。

A-2. 研究業績（国内・国外含む）

a) 成果刊行

原著論文（査読付）

- ・ H. Hosono, S. Ito, H. Kono, X. Xuan, Seroprevalence of *Toxoplasma gondii* in cats and pigs from Thua Thien Hue Province in Vietnam, *Journal of Veterinary Epidemiology*, Vol.13(2), pp.100-106, 2009. 12
- ・ K. Takeshi, S. Ito, H. Hosono et.al., Detection of *Salmonella* spp. Isolates from Specimens due to Pork Production Chains in Hue City, Vietnam, *Journal of Veterinary Medical Science*, Vol. 71(4), pp.485-487, April 2009

総説

- ・ 細野ひろみ「消費者の食品選択行動—消費者は生産物やフードシステムをどう認識し、何を求めているか」『農業と経済』Vol.75, No.11 2009年10月号
- ・ 工藤春代「欧州連合の衛生規則と GAP」『農業と経済』Vol.76, No.7 2010年6月
- ・ 工藤春代「国民視点に立った施策の形成と運営」『農業と経済』臨時増刊号 2010年1月

報告書等

- ・ 工藤春代「CSRに関する国際比較研究の動向」科学研究費補助金基盤 A「科学を基礎とした食品安全行政／リスクアナリシスと専門職業、職業倫理の確立」（研究代表者 新山陽子）最終報告書, 2010年3月
- ・ 細野ひろみ「デンマークおよびイギリスで実施されている家畜疾病サーベイランスに関する調査報告書」新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「我が国における家畜伝染性疾病のサーベイランスに関する研究」, 2010年3月
- ・ 細野ひろみ・工藤春代・新山陽子「消費者は牛肉をどう評価しているか—如何に知られていないかを知ることの意義—」科学研究費補助金基盤 A「科学を基礎とした食品安全行政／リスクアナリシスと専門職業、職業倫理の確立」（研究代表者 新山陽子）最終報告書, 2010年3月

b) 学会発表

- ・ 日本農業経済学会（4件）
- ・ 日本農業経営学会（1件）

- ・地域農林経済学会（1件）
- ・International Symposium on Veterinary Epidemiology and Economics（2件）
- ・Society for Risk Analysis 2009 Annual Meeting（1件）

A-3. 国内における学会活動など

競争的資金等獲得状況

①科学研究費補助金

- ・若手研究（B）：細野ひろみ：畜産衛生政策普及プロセスにおける社会環境要因の果たす役割
- ・若手研究（B）：工藤春代：食品分野における消費者政策のプロセス研究：日本・ドイツの比較研究
- ・基盤研究（A）：新山陽子（細野ひろみ、工藤春代）：科学を基礎とした食品安全行政／リスクアナリシスと専門職業、職業倫理の確立

②その他の競争的資金

- ・受託事業（農林水産省）「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」：細野ひろみ：わが国における家畜伝染性疾患のサーベイランスに関する研究

A-4. 国際交流・海外活動

国際会議・研究集会等（国、役割）

- ・細野ひろみ：International workshop on food safety and public health（日本、座長）

国際共同研究・海外学術調査等

- ・家畜疾病サーベイランス調査、畜産衛生システムの普及状況に関する調査（ベトナム）
- ・食品安全／消費者行政に関する調査（ドイツ）
- ・家畜疾病サーベイランス調査（イギリス，デンマーク，米国）

B. 教育活動（2009.4～2010.3）

B-1. 学内活動

a) 開講授業科目（担当教員）

- ・学部： リスク管理論（細野・工藤）、食品安全学Ⅱ（細野：分担）、食農倫理論（細野・工藤：分担）

- ・大学院： リスク管理特論（細野・工藤）

B-2. 学外における教育活動

学外非常勤講師

- ・工藤春代：京都ノートルダム女子大学・生活福祉文化学部（食品流通論／消費者教育）
- ・細野ひろみ：岐阜大学大学院連合獣医学研究科（連合獣医学集中ゼミナール，Managing Food Related Risk in South East Asian Countries）

公開講座等

- ・細野ひろみ：食品衛生にかかわる人材育成プログラム，食品衛生と消費者行動/食品衛生倫理学，帯広畜産大学，講師

C. その他

- ・細野ひろみ：京都市中央卸売市場第二市場運営協議会委員